

はじめに

午前中は、研究テーマとして単元を貫く言語活動を本時の学習の充実につなげることに
ついて解説があった。先生方の研究により、単元を貫く言語活動が必要であることは、も
う浸透し、研究は次の段階に進んでいると感じている。

1 今年度の実践発表について

(1) 研修Ⅰ A

丸亀支部からは、スピーチの実践として、聞き手を意識して話すために第二次の指導
をどのようにすればよいかという提案であった。

高松支部からは、場面の移り変わりに注意しながら物語を読み取っていくような実践
CM作り、本の帯作りという2種類の言語活動での提案であった。本単元で付けたい力
にぴったりの言語活動を選ぶことについての研究を今後も進めてほしい。

(2) 研修Ⅰ B

「若い教師のための基礎・基本講座① 国語科授業のファーストステップ」は、午前
中の三野校長先生のお話の「実践」・「共有」・「継承」の「継承」の部分の講座である
と感じた。80名の定員の所、120名をこえる申込みがあったということだが、すべ
て受け入れて開催していただいたことに、感謝している。県教育委員会でも「さぬきの
授業 基礎・基本」を配布しているが、活用していただいていることと思う。今後10年
間で4割の教員が入れ替わるという状況であるが、優れた指導技術とともに、香川のす
ばらしい教育文化を今後もつないでいってほしい。本研修は5か年計画と伺った。今後
も続けていただけることを、ありがたく、また楽しみにしている。

(3) 研修Ⅱ

多度津小学校の研究提案は、4つの視点で進められている。特に言語活動については、
言語活動の特徴を分析しながら研究がされている。研究は順調に進んでいるようなので、
次年度の発表に向けて頑張してほしい。

2 文部科学省初等中等教育局教育課程課 水戸部修治教科調査官のお話より

7月に水戸部調査官の話をお伺いする機会があった。非常に印象に残った2点について
お話ししたい。

1点目は、単元を貫く言語活動が意識された第二次の授業についてである。現在、単元
を貫く言語活動については、設定の重要性が先生方に浸透してきている。読みの学習にお
いて、第一次、第二次、第三次と授業が進んでいくが、第二次は従来行われていた詳細な
読解のみの学習になっていないかどうか、今一度確認をしていただきたい。単元を貫く言
語活動を位置付けた授業では、どの段階の学習においても単元を貫く言語活動が子ども
たちに意識された学習となっていることが必要である。発問は、言語活動を意識したもの
となっているだろうか。第二次の一時間一時間が詳細な読みになってしまい、第三次の言語
活動がまるでおまけのように付いているような学習では、教師主導の学習につながってし
まう。今求めている力は、実生活に生きて働く力である。水戸部調査官が力を入れて話を

されていた中に、「子どもは自らが主体的に課題を解決していく存在である」という言葉があった。だから、教師が順番に詳細な読みを与えていくのではなく、子どもが自ら課題をもち、その課題を解決するために、自ら読むような学習を進めていくべきではないかというお話であった。

もう1点は、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（5月に出された）についてである。この計画を出したときに、今後10年間で、不読率を半減させるということが言われた。そのため、学校や家庭、地域で読書を勧めていくことがこの中で述べられているが、学校での読書の指導は、国語科がやらなくてどの教科でやるのか。国語の先生は気概をもって、その読書活動に取り組んでほしいということをお話されていた。また、教科書教材だけを読んでいるのではだめである。読むことの指導事項の中に、目的に応じて読むことが入っているが、それは、しっかりとなされているだろうか。並行読書もきちんとしているかということをお話されていた。今、香川県では「香川の子どもたちに読んでほしい100冊」を選定して、各学校にお知らせしているところである。夏休み前にポスターも配布したので、それを使って、各校で工夫ある読書活動を推進していただければありがたい。